



# 農作業×モ

## 獣被害防止に有効な

## 「電気さく」の使い方

熊谷市では、スイートコーン・すいか・いも類などでタヌキ、ハクビシン、アライグマによる被害が報告されています。獣による被害の対策は、電気さくをほ場の周囲に設置して侵入を防止する方法がもっとも有効です。

電気さくとは、電気さく用電源装置（電源は通常乾電池）を用い、通電線に約1秒間隔で約0.002秒間だけ通電し、触れた害獣に瞬間的に静電気のような強いショックを与え、驚かして追い払うための道具です。

電気さく用電源装置を使うと、「電圧」は高いが、感電事故に関わる「電流」は低くなり、間欠方式で電気が流れるようになります。

今年の夏に「電気さく関連の死傷事故」が起きてしまいました。この事故は家庭用のコンセントから電流をそのまま流したため起きたものであり、

安全対策をしていれば防げる事故でした。

### 次の安全対策を徹底しましょう。

#### 1 電気事業法に基づく安全対策

(1) 人が見やすいように適当な間隔で危険である旨の表示をする。

(2) 必ず電気さく用電源装置を使用説明書に従い使用する。

(3) 家庭のコンセント等から電源をとる場合は、電気さく専用ACアダプター、直流式電気さく用電源装置、漏電遮断器を設置する。

(4) 本体に外から手が届かない時は、外から操作できる場所にスイッチをつける。

#### 2 設置上の注意点

(1) その年の被害が出る前（動物が畑に入る前）に設置しておく。

(2) 本体付属のアースを必ず地面に埋めて使う。

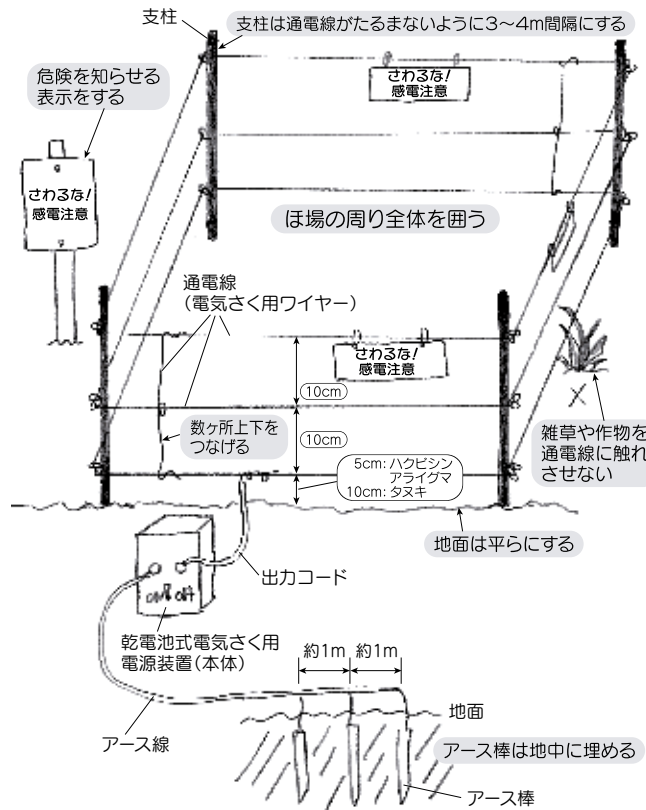


図 電気さく設置方法模式図

(3) 通電線に有刺鉄線は使わない。

(4) 電気さくとの間の作物との間を、50センチ以上離す。

(5) 通電線を張る場所は、平らにする。直せない溝ができる場合は、動物がくぐらないよう工夫する。

(6) 必ずほ場の周囲全体を囲む。

(7) 通電線は害獣の鼻が触れやすい高さ

(8) 畑のそばに大きな石、棚、家屋等があると、そこからさくに触れずに飛び込むので設置方法を注意する。

(9) 通電線に草が触れると漏電し、効果が出ないので、こまめに除草する。

(10) 乾電池が消耗していないか、被害や異常はないか等、見回り点検をする。

(大里農林振興センター 農業支援部)